



ひとまちふくおか

HITO MACHI FUKUOKA



「NOT A HOTEL FUKUOKA」 photo:YASHIRO PHOTO OFFICE

注目建築

「NOT A HOTEL FUKUOKA」都市と暮らしの新たな拠点 誕生

「福岡市民ホール」—技術が結実する新文化振興拠点—

「ONE FUKUOKA BLDG.」これからの100年を拓く、創造交差点

高校生の現場見学会 ▶ 福岡工業高等学校／浮羽工業高等学校

誇り高き獅子たち ▶ 現場を任せてもらえるよう、努力を重ねる若き二人 株式会社鈴木建設

協会NEWS ▶ 2025年 新年賀詞交歓会開催 ほか

スクールウォッチ ▶ 祐誠高等学校 土木科 土木実務研究部

注目建築 NOT A HOTEL FUKUOKA

都市と暮らしの新たな拠点 誕生



「+PENTHOUSE」屋上テラス



「+PENTHOUSE」5階テラス。



北側の外観。テラスの植栽が建物全体の個性を引き立て、暗くなると各室から漏れる明かりと共に光の箱が浮かび上がる。昼間は北側から安定した自然光が室内に届く。

最上階の「+PENTHOUSE」は、5階と屋上テラスを合わせ250㎡以上の広さがある。贅沢なルーフトップテラス、最大5人が入れるサウナや水風呂を完備し、建物の外観を特徴づける豊かな植栽も目を惹きます。

住宅街の一角で、どこからがホテルなのか一見してわからない建物が目を引く「NOT A HOTEL FUKUOKA」。「BLANK(余白)」というコンセプトは、監修を手掛けた小山薫堂氏から提示された「人生における余白の大切さ」という考えに基づいている。そのコンセプトは1階の宿泊者限定ラウンジ「+BLANC」から、各客室の全てに一貫して貫かれている。ここでは、設計を手がけたaxonometric株式会社の佐々木慧氏に、このユニークなホテルについて話を聞いた。

街の一部となるホテル

「最初から細かい設定が決まっていたわけではありませんでした」と佐々木氏は振り返る。この地域には学校や神社があり、戸建て住宅が立ち並び、庭のある住まいが点在している。「一つの建物というのは、街の一部みたいになつたらいいな」、そんな思いから、小山薫堂氏との対話を重ねる中で、大きな一つの塊ではなく、小さな庭付きの建物が集まっているような外観やこのホテルのあり方が少しずつ形作られていった。



独立性が生む多様な体験

ホテルの最大の特徴は、8室それぞれが完全に独立していること。「各室は廊下でつながっておらず、プライバシーが守られています」と佐々木氏は説明する。最上階の「+PENTHOUSE」は、贅沢なルーフトップテラスとサウナを備えた250㎡超の空間になっている。

4階の「+BAR」は、プライベートなバーラウンジとして設計され、落ち着いた雰囲気を演出。3階のクリエイターのための「+ATELIER」は、オフィスでもホテルでも自宅でもない、シーンを変えながら集中できる複数の場を設けている。さらに、1階の「+DOMA」は専用のペットテラスを備えるなど、それぞれのライフスタイルに応える空間を実現している。



2階にある「+CHEF」。気心の知れた仲間や友人と楽しむための美食の家。約30㎡あるテラスから春は桜並木を望むことができる。

光と影の慎重な対話

建物は北側に広がる公園に向かって開かれており、一見ランダムに見える建物の形状も、実は緻密な計算の上に成り立っている。特に北側の公園への影響については、慎重な検討が重ねられた。「子どもたちが遊ぶ公園に、大きな建物の影を落とし続けることは避けなかった」と佐々木氏は語る。

そのため、建物の高さや角度は何度も調整され、影のシミュレーションが繰り返行われた。これは単なる技術的な解決ではなく、街の公共空間を大切にするという設計者の強い意志の表れでもある。

設計から完成まで17ヶ月。「NOT A HOTEL FUKUOKA」は、宿泊施設としての機能を超えて、ホテルでありながら、人生における「余白」の大切さを説き、街に新しい価値を生み出そうとしている。各室100㎡以上という贅沢な空間で、街も自然も遊び尽くすことができる新しい滞在の形を提案し続けていくだろう。



「+PENTHOUSE」5階室内。



街との調和を考慮の上で、周りの街路樹や庭木と同じ種類を使うことで、違和感のない景観を目指した。

●「NOT A HOTEL FUKUOKA」受賞歴

- 2025年 2月 … iF DESIGN AWARD / 金賞
- 2025年 2月 … 福岡県美しいまちづくり建築賞 奨励賞
- 2025年 1月 … 建築九州賞(作品賞) 新人賞 / 奨励作品
- 2024年 12月 … DFA Design for Asia Award 2024 大賞
- 2024年 11月 … Asia Pacific Interior Design Awards (APIDA) 金賞 / 審査員特別賞
- 2024年 10月 … dezeen award 2024 ロングリスト選出
- 2024年 10月 … 日本空間デザイン賞2024 審査員特別賞 / 入選

●DATA(建物概要)

名称:NOT A HOTEL FUKUOKA
 所在地:福岡県福岡市中央区大宮2丁目3-34
 構造・規模:鉄筋コンクリート造、地上5階建て(総客室数:8戸(100㎡以上))
 規模敷地面積:530.20㎡ / 建築面積:357.57㎡ / 延床面積:1259.42㎡ / 最高高さ:19.92m
 事業主・運営:Good Life & Travel Company 株式会社
 NOT A HOTEL株式会社
 設計:axonometric株式会社 + NKS2 アーキテクト株式会社
 施工:松山建設株式会社

福岡市民ホール

—技術が結実する新文化振興拠点—



建築技術と芸術性が融合した、新しい福岡の文化振興の拠点が誕生する。音楽と演劇など多目的な利用に対応した音響空間を備え、公園に開かれた円形のガラスファサードの曲線美が特徴の福岡市民ホール。今号では、福岡の未来を奏でる「福岡市民ホール」の全貌に迫る。

曲線美と全面ガラスカーテンウォール。建物から広がる白いラインの「砂紋舗装」が水面のような広がり表現。

文化と緑が響き合う、新たな創造の舞台が誕生

建築技術の粋を集めた最新鋭の文化施設が、2025年3月に開館する。約2,000席の大ホールをはじめ、中・小ホールを備え、音楽から演劇まで多彩な演目に対応。建物全体に曲線美が施され、延べ約12万人の技術者たち、総労働時間約100万時間をかけて完成した意欲作である。

天神ビッグバンエリアとウォーターフロントエリアの結節点に位置する同ホールは、福岡の新たな文化振興の拠点として都心部において更なる人の流れを生み出す役割も担う。

曲線が奏でる、未来の文化空間

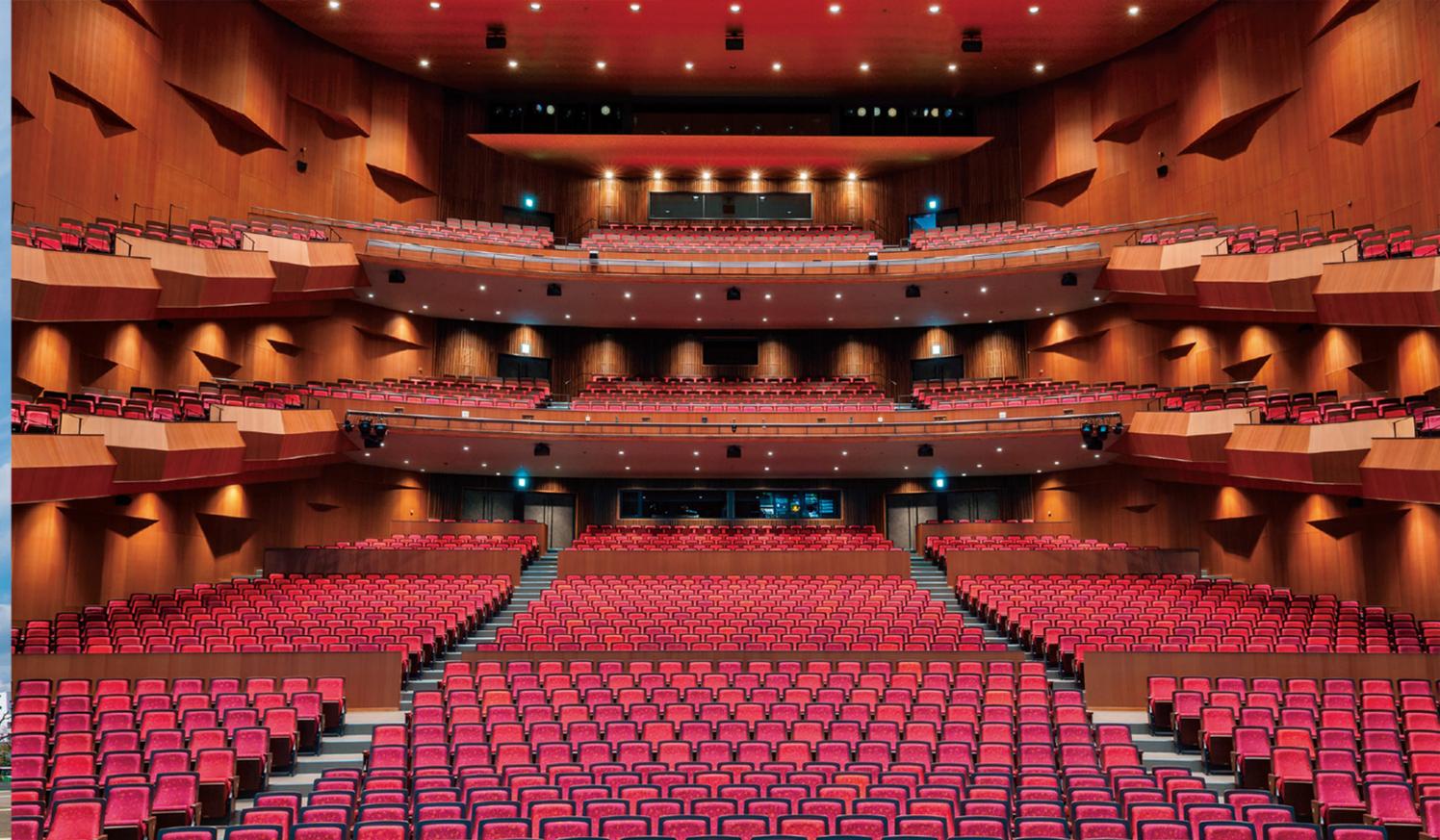
優美な曲線を描く外観。福岡市民ホールは、全面ガラスカーテンウォールと丸みを帯びた曲面が織りなす建築美で、福岡の新たなランドマークとしての存在感を放つ。

大ホールは、多様なニーズに対応する多機能ホールとしながらもオーケストラなどの音の響きを重視した空間だ。壁面の凸凹や天井

のR形状が音の反射と拡散を最適化し、2,000席全体へ繊細な響きを届ける。オーケストラピットは最大4メートルの可動範囲を持ち、オペラやオーケストラが要求する豊かな音場を創出。座席には4種類の赤色を配し、舞台から客席後方にかけて明るい配色とすることでホール全体に広がりを持たせるとともに、水面の揺らぎを表現している。



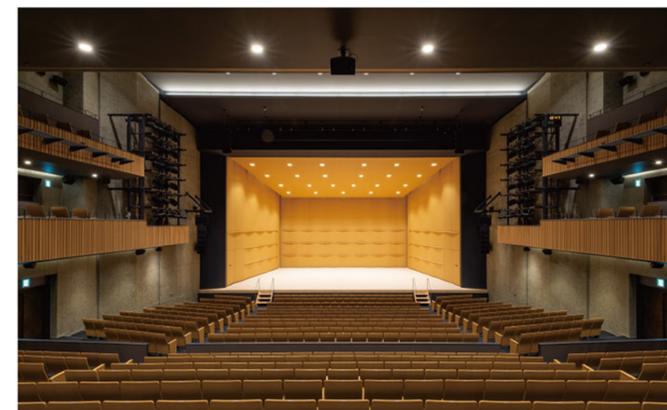
天井から吊り下げられたオブジェが風で揺らめき、水面が波立つような動きを演出。ガラス張りの壁面からは公園のみどりが見え、文化とみどりが調和する開放的なエントランス。



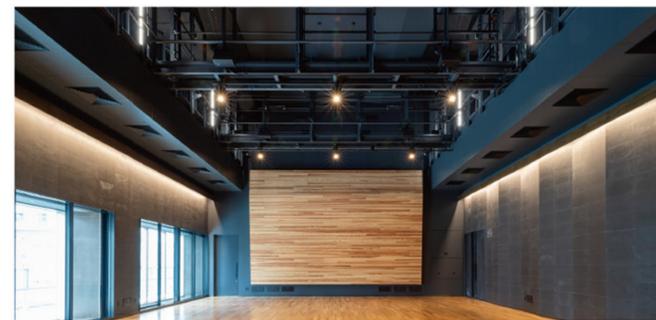
音響効果を高めるために設計された壁面の凸凹やR形状の天井。水面の光の揺らぎを表現した4色の張地が目目を引く。音響と意匠が融合した2,000席の劇場空間。

一方、中ホール(約800席)も同様に多機能ホールであるが、「言葉」などの音の明瞭さを大切に空間として設計された。適度に残響を抑え、演者の声の明瞭さを重視。舞台と客席の距離感も計算され、セリフの一つ一つが観客に確実に届く空間となっている。小ホール(約150席)は平土間のフローリング、飲食も可能として多目的な利用に対応する。

この曲線美の実現には高度な建築技術力が求められた。建物全体が丸みを帯びたデザインのため、鉄骨の組み立ては大きな技術的チャレンジとなった。ホール内部は吹き抜け構造で、「まるで林の中で作業をしているような」高い天井での施工が続けられた。Low-Eガラスの採用や高効率の設備機器を導入することにより、ZEB認証を取得。環境への配慮も行っている。



中ホール



小ホール



小ホールのエントランス



練習場



天神ビッグバンエリアとウォーターフロントエリアをつなぐ新たなランドマークになる。

●DATA(施設概要)	
開館予定日: 2025年3月28日(金)	敷地面積: 約10,669㎡
場所: 福岡市中央区天神5丁目2-2	延床面積: 約20,303㎡
構造: 地上5階、地下1階建て	総事業費: 約260億円 (須崎公園の再整備費用や運営費用等も含む)

撮影: Masahiro Teshima

注目建築 ONE FUKUOKA BLDG.

ワン・フクオカ・ビルディング

これからの100年を拓く、創造交差点

「天神ビッグバンの新たな象徴 ワン・フクオカ・ビルディング」
～都市とビジネスをつなぐ先進的な複合施設～

2025年4月、福岡市天神に誕生する「ONE FUKUOKA BLDG. (以下、ワン・フクオカ・ビルディング)」は、商業・オフィス・ホテル・インキュベーション機能を融合した複合施設である。開発コンセプト「創造交差点」のもと、新たなビジネス、文化、ライフスタイルが交わる場として、福岡の未来を切り拓く。



福岡市・天神の中心に位置する「ワン・フクオカ・ビルディング」は、地上19階・地下4階建て、高さ約97mの大規模複合施設である。地下2階から5階までの商業エリア、6・7階のスカイロビー、8階から17階までのオフィスエリア、そして18・19階のホテルで構成され、実に多様な機能が融合する都市拠点として注目を集めている。

この建物は、最新型制震装置「HiDAX-e」を採用し、大地震の揺れを大幅に抑える高度な安全性を特徴としている。環境性能面では、二重構造の外壁(ダブルスキン)により、優れた断熱性と省エネ効果を実現。また、照明は人の動きを感知して自動制御するシステムを導入している。

建物全体の環境性能の高さが評価され国内外の権威ある環境認証である、DBJ Green Building 認証の最高位ランク、LEED GOLD予備認証、そしてZEB認証を取得。環境に配慮した未来型の建築として、高い評価を得ている。

外装デザインにおいては「アーバンルーフ」「アーバングリッド」「アーバンオアシス」の3つのコンセプトを取り入れ、日本の伝統的な格子柄と西鉄グループを象徴するデザインが見事に融合している。

商業エリアには、九州初進出を含む約130のテナントが集結。飲食店舗の総客席数は約1,800席と、天神地区最大級の規模を誇り、高級ブランドからローカルの名店まで、多彩な店舗構成で新たな賑わいを創出する。

天神の新たなコミュニティ拠点として誕生する天神福食堂

5階に設置される「天神福食堂」は、天神地区最大級の食堂として誕生する。オフィスワーカーはもちろん、買い物客や観光客など、多様な人々が集い、憩える開かれた場を目指している。福岡の豊かな食文化を体感できる空間として、新たな交流の拠点となることが期待される。

『未来を創造、100年先へ。天神の新たなランドマークに寄せた思い』

「ワン・フクオカ・ビルディング」は、天神ビッグバンの中核を担う交流施設として、創造の場を提供します。本プロジェクトでは、多様な機能を融合させることで、新たなビジネス、カルチャー、ライフスタイルが生まれることを目指しました。最先端のオフィス環境、国内外のブランドが集まる商業施設、そしてスタートアップ支援の拠点となる「ケンブリッジ・イノベーション・センター」が一体となり、未来の都市づくりを支えます。これからの100年先を見据え、福岡の未来を切り拓く、創造と交流の拠点、「ワン・フクオカ・ビルディング」にご期待ください。



西日本鉄道株式会社
代表取締役社長 林田 浩一氏



スカイロビーの窓側にある大階段。

スカイロビーが結ぶイノベーション拠点／6階・7階

6階にはスカイロビーを中心に、ワーカーズラウンジやカンファレンス施設が集約され、7階には「CIC Fukuoka」が設置される。ビジネスパーソンの交流とスタートアップ支援の場が一体となり、「創造交差点」として新たな価値を生み出す拠点になる。

※CIC: Cambridge Innovation Center(ケンブリッジ・イノベーション・センター)



ランチとアパリティィボ、2つの顔で多様なニーズに対応できる「天神福食堂」。(5階)



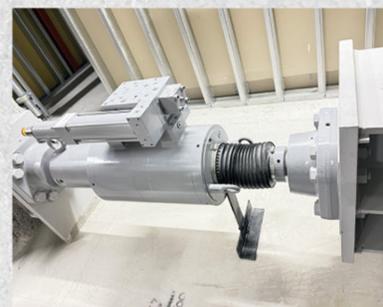
天井高3m、1フロア約1,400坪の西日本最大級のオフィススペース。(17階)



天神交差点側のテラス。



エントランスから見上げるとフラットではない個性的な外壁に出会う。



最新型制震装置「HiDAX-e」。



非接触型エレベーターシステムを導入した顔認証システム搭載の高セキュリティオフィスエントランス。



吹き抜けの大階段から見たスカイロビー。



名称: ONE FUKUOKA BLDG. (ワン・フクオカ・ビルディング)
所在地: 福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号
交通: 福岡市地下鉄 天神駅直結
構造・規模: 地上19階・地下4階(高さ約97m)
延床面積: 約147,000㎡
主要施設: 商業(B2F~5F)、スカイロビー(6F~7F)、オフィス(8F~17F)
ホテル(18F~19F)
設計: 基本設計 株式会社日建設計/実務設計 鹿島建設株式会社
施工: 鹿島・安藤ハザマ・松本・西鉄建設 特定建設工事共同企体
事業主: 西日本鉄道株式会社

浮羽工業高等学校
建築科 2年
2024年11月29日

天神ビジネスセンター2期計画工事現場

協力:前田・旭特定建設工事共同企業体

福岡工業高等学校
建築科 2年
2024年12月3日



建設現場を見学し、クレーンによる柱や鉄骨の施工過程を間近で見ることができ、貴重な経験となりました。普段立ち入れない場所での説明は、とても勉強になりました。分かりやすいスライドは、プレゼンの良い手本となり、このような専門性と伝える力を身につけたいと感じました。今後は積極的に質問し、知識を深めていきたいと思ひます。



建築科 2年
井上 麻陽さん

現場見学を通じて、建設工事には多くの人々が関わっていることを実感しました。実際の製図は学校で学ぶものとは比較にならないほど、細部まで綿密に作られていました。設計者の方々の専門性の高さと緻密な仕事ぶりに感銘を受け、建設業界の奥深さを知ることができました。今後もこの経験を活かして学びを深めていきたいです。



建築科 2年
矢野 心愛さん

現場見学では、天神中心部に建設される大規模建築物の基礎工事やコンクリート打込み作業を見学し、学校での工事とは比較にならない規模の大きさに驚きました。特に工事完了までに必要なミキサー車が何万台にも及ぶという説明は印象的でした。仕事に役立つ貴重な知識や経験を今後の学校生活や将来に活かしていきます。



建築科 2年
門田 誠真さん

前田建設・旭特定建設工事共同企業体による天神ビッグバンプロジェクトの一環である天神ビジネスセンター新築工事を見学しました。作業員さんの動きや工事の進捗状況など、詳しい説明を受けながら現場を見学し、多くの建築用語や施工方法について学ぶことができました。この貴重な経験を将来に活かしていきたいと思ひます。



建築科 2年
前山 堅哉さん

福岡工業高等学校
建築科 1年
2024年12月5日

(仮称)久山町物流倉庫計画作業所

協力:安藤・間 / 安藤ハザマ協会の九州支部



現場見学で、コンクリートのひび割れを防ぐため意図的に水をまく工夫や、CO2削減に向けて近隣から材料を調達する環境配慮の取り組みや、普段は体験できない貴重な体験を通じ、建築の奥深さを実感しました。将来は建築士として、今回出会った職人さんたちといっしょに働くよう、この経験を糧に努力していきます。



建築科 1年
大宅 杏奈さん

現場見学では、怪我や事故を起こさないことが最も重視されていると感じました。現場の方々も建物を建てる上で事故防止が最優先と話され、朝礼での注意事項ボードの掲示など、様々な安全対策から安全確保の大切さ学び、それが建物利用者の安全にも繋がると実感しました。私も声かけやあいさつを日々意識していきたいと思ひます。



建築科 1年
森山 琉斗さん

誇り高い獅子たち

社会のために未来のために建設業で活躍する若者たち
〔社〕福岡県建設業協会に加盟している104社の企業で、地域の安全・安心のために建設業で活躍する若者を取材しています。



株式会社
鈴木建設

現場を任せてもらえるよう、努力を重ねる若き二人

今回は、(株)鈴木建設で働く、清水さん・佐藤さんをクローズアップします。

建築事業部 清水 洸一郎さん (27歳) 入社7年目

●建築業へ入ったきっかけは?

中学生の頃に進路の授業があり、家を建てる大工さんの仕事に憧れたことがきっかけです。高校卒業後は、福岡市内の建築系専門学校へ進学しました。専門学校で建築を学んだことを活かし、現場監督の仕事に就きたいと考えるように。卒業後は、地元で仕事に就きたいという気持ちが強く、筑豊地域で長い歴史がある(株)鈴木建設に入社しました。

●現在、どんな仕事をしていますか?

今は、現場監督として施工図の確認や工程管理、工事写真の撮影整理、職人さんや関係会社への連絡調整などを行っています。入社当初から3年位は、現場の流れを把握することや職人さんとの連絡調整にかなり苦勞し、よく上司に指摘を受けました。3年目に2級建築士の資格を取得したことで、現場の流れをより理解できるようになり、今では、連絡調整もスムーズにいくようになりました。現場監督は多くの人々とかかわるため、コミュニケーション能力が問われる仕事だと思います。

●これからの目標は?

既に一級建築施工管理技士と二級建築士の資格を取得しているの、今後は一級建築士と一級土木施工管理技士の資格取得を目指しています。仕事の幅を広げ、多くの現場に携わりたくので、建築と土木、両方の資格を取得し、現場所長として、現場を運営していけるようになることが目標です。

●中高生へのメッセージ

建築業は、目に見える形で物が出来上がり、工事が終わった時は達成感を覚える、やりがいのある仕事です。工期が短くて大変な現場もありますが、そんな現場ほどやりがいも感じます。



「一緒に仕事をしていると、細かいところまで気がつき、とても良い補佐役になってくれます。将来有望です」(右:野中係長)

建築事業部 佐藤 州陸さん (19歳) 入社1年目

●建築業へ入ったきっかけは?

父が建築関係の仕事をしていたので、興味を持ちました。高校の時に学校からの紹介で2社の会社見学に参加し、職場の雰囲気が良かった(株)鈴木建設に入社しました。

●現在、どんな仕事をしていますか?

今は、職人さんと話し合いながら、現場の調整を行っています。入社して1年目なので、上司の吉永所長のもとで、毎日、施工管理の仕事をしているところです。仕事には責任が伴うので、わからないことを適当に答えると、仕上がりに違いが出てくるため、発言に気を付けています。職人さん達に確認しながら、きちんと話をして進めていかなければならないと思っています。

●今後の目標は?

現在は2級施工管理技士の資格取得を目指して、勉強しています。将来は、一人で現場を任せてもらえるようになりたいです。

●上司からのメッセージ

高校卒業後すぐに入社し、慣れない環境の中で良くやっているとします。建築の知識はまったくゼロからのスタートでしたが、現場で仕事を一つ一つ学びながら頑張っています。これからの成長を楽しみにしています。(吉永所長)



2025年 新年賀詞交歓会開催

今年の年初、1月15日(水)にソラリア西鉄ホテル福岡で、建設関連の5団体(一般社団法人福岡県建設業協会、一般社団法人福岡県土木組合連合会、福岡県建設業協同組合、建設業労働災害防止協会福岡県支部、福岡県建設関連産業協議会)が合同で賀詞交歓会を開催しました。この会には410名が参加し、新年の挑戦と展望を共有する機会となりました。



地域のために～2024年度 献血活動報告～

当協会では、毎年血液が不足する11月から12月を「献血重点月間」とし、社会貢献の一環として「献血活動」を行っています。今年度は、福岡市内3か所と北九州市内2か所の献血ルームにて、2か月間の献血活動を実施いたしました。また、福岡市内1か所、久留米市内1か所の街頭において、献血車での活動も行い、合計351名にご協力頂きました。



建築基準法・建築物省エネ法の改正

●省エネ基準適合義務化

2025年4月1日より、原則全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合が義務付けられます。これにより、建築確認手続きの中で省エネ基準への適合性審査が行われるようになります。

●4号特例の見直し

一般的な2階建ての木造住宅が該当する「4号建築物」が「新2号建築物」となり、4号特例の規模が縮小されます。これにより、床面積200㎡以下の平屋建てを除く多くの住宅の新築では、建築確認申請において構造の審査などが必要になります。

福岡県内 高齢者や子育て世帯向け等住宅支援策

●福岡県子どもリノベ補助金

福岡県では、若年世帯又は子育て世帯に対し、「住まいの健康診断」を行って購入した中古住宅や、これから同居する親世帯の持家に行うリノベーションにかかる費用を補助しています。

- 対象世帯: 夫婦の年齢が合計80歳以下の若年世帯、妊娠中や子育て中の世帯 ※その他条件あり
- 補助金額: 対象工事費用の3分の1(上限50万円)
- 問合せ先: 福岡県建築都市部住宅計画課



●子育て世帯住替え助成事業(福岡市)

子育てしやすい住宅への住替えを支援する制度です。

- 対象: 子育て世帯
- 助成額: 最大25万円
- 対象: 引っ越しや中古住宅取得(新築住宅は対象外)
- 問合せ先: 福岡市住宅計画課



●高齢者等在宅生活支援(住みよか)事業

高齢者や障がい者に配慮した住宅改造を支援する制度です。

- 対象: 福岡県内(政令指定都市を除く)に住所を有する者で、要介護・要支援認定者や一定の障がい者等
- 助成限度額: 30万円(※)
- 対象工事: 高齢者等の自立を促し、日常生活の利便を図り、介護者の負担が軽減される住宅の改造
- 事業主体: 市(政令指定都市を除く)・町・村 ※市町村によって変わります



●住むなら北九州 移住推進事業(北九州市)

北九州市への移住を促進するための支援制度です。

- 対象: 市外からの転入世帯
- 補助金額
 - ・賃貸住宅の場合: 家賃2か月分(20万円上限)
 - ・住宅購入の場合: 世帯人員1人あたり15万円(50万円上限)
- 問合せ先: 北九州市都市戦略局 総務政策部 住まい支援室



各制度の詳細や申請方法については、ホームページや各自治体の担当窓口を確認してください。

監理技術者講習

オンライン講習 好評開催中! 受講日 変更可能 講習料の支払 手数料無料

一般財団法人 建設業振興基金
FAX or インターネットからの簡単申込
https://www.fcip-ko.jp/ 講習料センター
TEL.0570-081-812 FAX.0570-081-882

なんでも経審Plus は、**JCIP** 対応 (建設業許可・経営事項審査電子申請システム)

許可・経審の「電子申請」も「なんでも経審Plus」

建設業許可・経営事項審査電子申請システム(JCIP) ↔ そのまま登録できる! 許可・経審申請データ出力

「なんでも経審Plus」を使うと...
 ① JCIPへの申請データを作成できます! ※JCIP(建設業許可・経営事項審査電子申請システム)
 ② JCIPから取り出した前回データも取り込めます!
 ③ 経営状況分析申請用データも作成可能。そのまま電子申請するとお得!

※一部の行政庁では、令和5年1月からの電子申請受付はできませんのでご注意ください。

導入・操作がイメージしやすい 「かんたんスタートガイド」公開中!!

経営状況分析は「信頼と実績」の登録経営状況分析機関 登録番号 1 詳しい情報は http://www.ciic.or.jp/ または CIIC なんでも経審Plus 検索

CIIC 一般財団法人 建設業情報管理センター 九州事務所
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3丁目14番18号 福岡建設会館6階
【お問い合わせ】 TEL 092-483-2841 FAX 092-483-2846

建設業のみならず! 安心できる未来をつくるう!

建退共 電子申請で掛金納付をもっと便利に!!

建退共は建設業で働く労働者のための退職金制度です。

国がつくった退職金制度なので安心かつ確実! 制度説明動画配信中 [建退共] 検索

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL03-6731-2866

新しくなって、さらに安心・納得!

手厚い補償 保険区分合計最高5,000万円 契約者 割戻金制度により掛金負担が軽減 労働者と企業のリスクをカバー

社員と家族、会社を守るために。 割戻金の支払いが始まっています。

建設共済保険 法定外労災補償制度

今すぐご加入を!

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。 公益財団法人 建設業福祉共済団

育英奨学事業 労働安全衛生推進事業

被災者(死亡および障害・傷病3級以上)の子供に対して、要保期間および小学校から大学までの在学期間中、経済不安の奨学金を継続して給付。

① 安全衛生用品の頒布 ② 女性専用トイレ・更衣室導入費用の助成 ③ 安全衛生推進者表彰 等

〒812-0013 福岡県福岡市博多区東3丁目14番18号 TEL 092-477-6731 FAX 092-477-6740

正確な掛金の試算や資料請求はこちらまで 0120-913-931 (受付時間 午前9時00分～午後5時00分(土日祝日を除く))

詳しくはHPをご覧ください! 建設共済保険 検索 https://www.kyousaidan.or.jp/



祐誠高等学校 土木科 土木実務研究部



未来の建設技術者を育成する祐誠高等学校
—土木実務研究部の挑戦—

福岡県の祐誠高等学校土木科では、社会インフラを支える技術者の育成に力を注いでいます。測量士補や2級土木施工管理技士補などの資格取得を目指す一方、空港やダム、トンネルの現場視察を通じて実践的な学びを重ねています。

特に注目されるのが、土木実務研究部の2年生たちが挑むコンクリートカヌー大会です。2001年から出場しているこの大会は

大学院チームも参加する高難度の競技。これまでに高校生チームとして優勝実績を持つ同校は、今年8月の大会に向け、先輩たちが残したカヌーを手掛かりに入念な設計検討を進めています。20~30ミリという繊細な厚みのコンクリートで「沈まない船」を作り上げる——その挑戦に向け、放課後の部室では熱い議論が交わされています。



コンクリートカヌー大会出場のきっかけを作った関口先生と共に。



少数精鋭で来年度の全国大会優勝を目指す。



全国大会で優勝した経験がある「土木実務研究部」。制作したコンクリートのカヌーで全国を舞台に大健闘。

My Dream 建設業界で活躍したいと思った理由・将来の夢とは

幼い頃からものづくりに興味があり、特に鉄道や橋などの土木構造物が好きで、将来は鉄道関係の仕事に就きたいと考え本校に入学しました。土木を学ぶ中で、社会基盤を支える重要性を実感し、幅広い知識と資格取得に励んでいます。福岡、九州、アジアの発展に貢献できる鉄道会社への就職を目指し、全力で学んでいます。



土木科 2年生 西野 漣さん

祐誠高校土木科には、社会に貢献できるものづくりを仕事にしたいという思いで入学しました。本校は進路が充実しており、さらに多くの先輩の活躍を知り、この学校で目標が叶えられると確信しました。現在は土木実務研究部で資格取得に励んでおり、将来は様々な資格を持つ土木技術者として活躍したいと思います。



土木科 2年生 竹本 弘大さん

子どもの頃から建物を建てる夢があり、トンネルや橋梁に携わって人々の役に立ちたいと考え、専門知識を学べる祐誠高校に進学しました。入学時は全てが初めての経験でしたが、新たな知識や計算方法など、多くの刺激を受けています。資格取得の機会を逃さず、勉強は大変ですができるだけ多く取得したいと思います。



土木科 2年生 山崎 魁斗さん

DATA | 学校法人 久留米工業大学 祐誠高等学校 〒830-0052 福岡県久留米市上津町2192 TEL.0942-22-1238

